

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272300861		
法人名	(有)みなみ風		
事業所名	グループホームみなみ風		
所在地	静岡県富士市伝法17731		
自己評価作成日	平成28年12月5日	評価結果市町村受理日	平成29年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2272300861-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年12月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

最期までその人が自分らしくなじみの関係の仲間と、ゆっくりのんびりと生活していただけるように日常を送っています。ご家族にも安心して生活していただけるよう情報の共有に努めています。H28年度に社訓ができ、職員間で共有し日々目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

診断名もつかないような重篤な症状を以て本来ならば入院となることを、家族の「できれば此処で～」との希望を受け、事業所も「家族が今後遠方の病院に通うことになるのは難儀かも…」と気遣い、事業所に残ることになった利用者も居ます。このような取組みが叶うのも、「みなみ風のような温かい家をつくる」との社訓に基づく姿勢と看護師配置による医療連携体制の賜物です。また開設から13年を経て、職員にとっても第2の我が家となり平穩、安泰ななか、隣にある(同法人)小規模多機能事業所と職員交換を1ヶ月限定で果敢にチャレンジして、職員には刺激となるとともに、勤務事業所への気づきにもつながり功奏しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度より、事業所としての理念を作り、代表が各事業所へ伝えた。実践につながるよう話し合いも適宜している。	「ゆったり〜」とのグループホーム理念の上位となる社訓が新たに誕生し、隣にある小規模多機能事業所とともに立ち返る道標となっています。導入にあたっては掲示のうえ代表から講話もあり、意識づけが進んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し、会合にも参加させていた。祭りに参加し、昨年同様出店もさせていただいた。高校生や中学生の福祉体験や実習受け入れを行っている。日常的に散歩中挨拶をし交流している。	自治会の天王祭には、手作りの味噌やシューシュを並べ、完売しています。一昨日の餅つきにも近所の子どもたちが覗いてゆく様子からも、自然な形でなんとなく知っている処という存在になりつつあることが覗えます。	今後は、回覧板を利用者と届けることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の席で実践していることを報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、小規模多機能と合同で定期的に開催されて、状況報告等や課題について協議されている。	案内発信、隔月開催、議事録作成が滞りなくできています。「実習から入職につながったことは？」との質問から、高校への問い合わせを経てハローワークに書類提出に至ったこともあり、よりよい運営につなげています。	隣の事業所と合同でおこなっていることから議事録が同じとなっていますが、別となる(どちらのエピソードなのかわかるように)ことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護認定更新時や、市による連絡会会議に参加し、交流会で他施設の利用者や職員との交流を深めるよう努力している。	必要に応じて窓口に出向き、運営推進会議にも市役所や地域包括支援センターから職員が出席くださっています。グループホーム連絡会や行政主宰の研修会にも積極的に参加して、連携に努めています。	介護相談員をお願いするなど、さらにつながりを持つと、なおよいと思います。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言を継続し、玄関や窓の施錠はせずに、自由に外出ができる環境を整えており、その都度職員が見守りや共に行動している。	雨天や風が強い日を除き玄関は開け放しています。年間研修にも位置付け、2月にはスピーチロックをテーマに予定しています。ベッドからの転落が心配されるケースではマットレスと布団を導入するなど「身体拘束にならないように」と手前での是正策を講じています。	一時性、代替性、切迫性の書面について改めて職員間で見直すことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや日常での申し送りの中で話し合いを行いながら、虐待防止について見過ごされないことを継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方がいるので、制度については話し合いがあり理解されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明をしており、疑問点等はその都度説明し納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回のお便りで意見等を伺っているが、個別で要望があるときにはその都度対応している。	代表や職員と気持ちでつながっている家族が大半で「わかり合えている」という安心感のなか親睦の場がないままですが、家族の忙しさを考えると躊躇していた家族会は今後の視野に入れていきます。	年1度程度は家族が一同に会する機会があることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや、日常の中で意見を出しやすい体制を整えながら反映させている。併設の施設実習を実行し意見や提案を聞いている。	月1回ミーティングがあるほか、毎日カンファレンスを中心とした合議の場があります。隣の小規模多機能事業所と職員交換を1ヶ月限定でおこなっていて、刺激となるとともに、勤務事業所への気づきも生まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できるだけやりがいもの持てる職場にしていきたいと日々努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の力量に合わせた研修参加への促し、事業所内の研修を月1回開催している。ときに職員が講師になり本人の自己研鑽にもなりつつある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富士市内のGH交流会に参加し、他施設との交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴を収集し、職員間で情報の共有を行いながら、本人の困っていることや不安になっていることへの対応ができるよう関係づくりに努めている。さらに本人の喜びそうなことを確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を伺いながら、安心して日常生活が送れるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の都合によって、特養などへの入所への対応など、その時にあった対応をする。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が介護しているという立場ではなく共に過ごすよう心掛けし利用者一人ひとりがその人らしい生活が送れるようさりげなく支援している。職員も利用者から学ぶことや尊敬している姿勢を大切に毎日一緒に過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者にとって家族はとて大切な人であることを常に考え、利用者、家族の安心できる関係に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出の希望は自由にしている。以前馴染みの美容院に同行していた。	新聞に入っている広告チラシを朝皆で回覧して、「鮮やかな赤色のリンゴを見て一言…」といった時間を毎日繰り返しています。面会は驚くような時間帯での訪問はないものの、バイクで夫に会いにくる伴侶もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が介護しているという立場ではなく共に過ごすよう心掛けし利用者一人ひとりがその人らしい生活が送れるようさりげなく支援している。職員も利用者から学ぶことや尊敬している姿勢を大切に毎日一緒に過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お亡くなりになっても、ご家族が落ち着いた頃、来訪されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や、動作の中から探っている。困難な場合はご家族に相談している。	本年から昼食後にカンファレンスを設けて、利用者の状態等、情報共有を確かなものにしていきます。普段から耳を傾けていますが、七夕では職員が持ち寄った笹に願い事を書くなど節目節目で想いを確認しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時からのインテークシートにて、情報の共有を行いながら、面会時ご家族との会話の中から情報を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時には、介護記録を確認し申し送りの中で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題をカンファにて検討し、記録に意見を出し合いながら、ご家族とのカンファの時間を作り意見を出し合いながら検討し介護計画を作成している。	計画作成担当者は介護支援専門員資格を取得したばかりで不慣れなため、管理者が現状フォローに入っていますが、「その人の人生をつくる大事な仕事」として、今後はマンツーマンの所内研修もおこなう方向でいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を確認しながら、情報の共有をし、カンファレンスやミーティングにて検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の都合にて他の施設への希望があり、相談や他施設を紹介やそれに伴う支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住宅街にあり、近くに公園や近所で遊ぶ子供たちの声が聞こえ、散歩で会う方には挨拶をしている。併設での行事には近隣の方にも参加していただき顔なじみになれるよう努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問時や、状態変化の時など主治医に報告するとともにご家族に連絡し希望を聞いている。	全員が月2回の訪問診療がある協力医に変更しており、また専門医への付き添いは家族にお願いしていますが、家族が難しいとなれば事業所が快く代行しています。必要な人には歯科医の往診もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態の情報を共有し、変化があるときには看護職に気づきを伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、面会し病院関係者に日常の様子を伝え、早期に退院できるよう情報交換や相談に努めている。退院時では注意点等を教えていただき、主治医に報告している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や、早い段階で看取り指針の説明をしており、ご家族間で話し合ってもらいながら今後の方針を決めている。	本年度は2名お見送りがありました。代表が看護師で、職員も経験者が多く安心なチームケアができる事業所ですが、現在新しい協力医と看取りでの連携がスムーズでないことが課題です。	協力医と看取りにおける段取りなどについて改めて確認し、共有することを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内研修の中に組み込まれており、伝達講習を行いながら実践力を身に付けているよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回訓練を行いながら、総合防災設備会社の担当者から指導を受けている。昼夜問わず避難できる方法を身につけている。地域では災害時駐車場をお借りできる。	防災業者が毎回訓練に立ち合ってくれ、年2回実施しています。防災士(ふじの国防災フェロー修了士)による、毛布やシーツを使った移動方法講習もおこうとともに、「東京防災」(東京都発行)からも学んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「自分らしくいつまでも」暮らしていただけるよう尊重し、誇りやプライバシーの保護等十分に気を配っている。言葉かけに対しても、本人の人格を尊重し十分配慮している。	「第2の我が家で～」との考えを以て「家に面会簿はない」との姿勢を貫いてはいますが、日報には面会者を記録して安全を図っています。呼称はちゃんづけで、和気藹々とした我が家の雰囲気には溢れています。	次の2点を期待します。①面会者名だけでなく、念のために滞在時間の記録をつける ②呼称について家族に確認(了承)をとっておく
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	束縛せず、返答や動作のゆっくりな方でも落ちついてせかさず対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「ゆっくり、のんびり、なじみの仲間と自分らしくいつまでも」を念頭において、できる限り利用者の望む方向で過せるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月美容師が来訪してカットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を利用して季節感を味わっていただいたり、時に野菜の皮むき等を一緒に行う。広告を見たり、会話の中で～が食べたことと話されることもあり、調理の方に伝えメニューに出ることもある。	調理専任の職員を配し、ひじきの煮物や職員が自宅から持ち込んだぬか漬けといった昔ながらの家庭惣菜が並びます。3名が食事介助が必要な状況ですが、職員は利用者の発語も廻して、明るい食卓です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員も、一緒に過ごしているので状態がわかり、その時に応じた食事形態になっている。ミキサーになった方でも状態に応じ刻み食になる事もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを行っている。ブラッシングの介助や見守りを行い清潔を保つよう努力している。異常時は訪問歯科に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チェック表を確認しながら、トイレでの排泄を促している。気温差で排泄パターンが変化するので声かけなど情報の共有を行いながら失敗しないよう支援している。	フロアに3つあるトイレは臭いもなく、消耗品も置かずスッキリ整然としています。パッドからターナ(スウェーデン生まれの介護用おむつ)にすることで失敗が減った利用者もいて、職員も使い方など勉強となっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や、トイレに座る、朝食に牛乳を飲むなど個々に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の本人の気分により事前に伝えておくなど気分良く入れるよう支援している。個々にあわせ湯の温度を変えている。	湯は一人毎に張り替え、全員が一番風呂です。リフト浴を取付け、現在4名が活用しています。実習生も体験して「上がりますよ～」といった声掛けがあることで不安がなくなってきたと、感想も残しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中疲れたらベッドに横になってもらったり、夜間は豆電球の使用や、掛け物調節を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期処方職員間で理解している。屯用は申し送りノートに記載し、申し送りで情報の共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換の散歩やドライブで気分転換を行っている。併設の施設でのボランティア行事なども参加している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	併設の施設での合同行事のときなど、大回りして近所の花を見たりしている。恒例のイチゴ狩り等にはご家族に連絡し同行をお願いしている。	隣にある事業所との交流では大きく迂回して戸外の風を感じるよう配慮しています。日曜日は「今日は天気いいから～」と誘い合っただライブが増えていて、中央公園や広見公園で薔薇の花を眺めたり、また年1回バスをチャーターしての苺狩りも継続しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常お金は所持していないが、買物やお茶を飲んだ時に本人に支払ってもらうよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をした希望があるときには、本人に電話を渡す。手紙のやり取りは難しいが、メモ書きぐらいの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの南側に大きな窓があり、朝日を浴びたり、日差しの強い時にはカーテンで調節している。	テーブルに手作りカバーを掛けて簡易炬燵があったり、ソファを工夫しての居場所づくりへの気遣いも見られ、また以前から課題としていた日本間の整理整頓が実現しています。	物干し竿は夜間の動線確保と加湿のため必要とのことですが、劣化したビニールテープだけでも片付け、新しいものに替えることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルで談話したり、塗り絵をしている。リビングソファで、仲の良い方と座って過したりと思いのまま過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれたものを、ご家族にお願いしているがご家族よりの持ち込みは現在なし。	ベッドと大きなクローゼットが備わり、収納力があるためか物の持ち込みが余り見られません。利用者本人も日中は皆でリビングに集うため、居室は就寝のみに使われている様子です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが安全に生活できるよう、建物全体バリアフリーで、必要な箇所には手すりを設置している。		